

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902488		
法人名	有限会社 ライフステージ		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	旭川市神楽4条1丁目2番4号		
自己評価作成日	平成27年7月1日	評価結果市町村受理日	平成27年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvogyoCd=0172902488-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvogyoCd=0172902488-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成27年10月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の体操、歌の時間を作り活動したり、また、季節を感じて頂けるような行事を行ったり、共同作品をホールに飾っています。誕生会には、ご家族を招待し一緒にお祝いできるよう食事会の席を設けています。一行日記と題して日々の様子や出来事、行事報告など記載し、月に一度ご家族へお便りとして報告しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりの一日の特徴のあるご本人の言葉や行動等を「一日一行日記」にまとめたり、毎月通信を発行して生活の様子や健康状態など家族に報告して、家族等からの意見や要望等を聞く機会を設けている。また、口腔体操やラジオ体操等で身体機能の維持・向上に努めたり、季節に合わせたお祭り見物やお花見等で張り合いのある日常生活を送れるように支援している。毎年開催している「ひだまり祭」は、ボランティアの協力を得たり、地域の人々、家族が多数参加するなど交流や連携の機会となっていると共に地元の中学校に協力して体験学習を受け入れるなど事業所の持つ機能を地域に還元する取り組みも実践している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、5つの「あい」を掲げ、入居者の思いや意思を尊重できるよう、職員同士その人の立場になって物事を考え、相談しながら支援に繋がっている。	事業所独自の理念を作り、全体会議やミーティングで話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「ひだまり祭り」に地域の方も呼び、親睦を深めている。町内会総会へも出席し、地域の方との交流を深めている。	毎年開催している「ひだまり祭」は、ボランティアの協力を得たり、地域の人々、家族が多数参加するなど交流や連携の機会となっている。また、地元中学校に協力して、体験学習の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会を通じ、認知症やグループホームでの取り組みなど、また、相談援助を行うなど関わりを持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	入居者への取り組みなどの報告を行い、家族の思いや他施設の取り組みの意見、国や行政に対する意見など参考にして、サービス向上に繋げている。	運営推進会議は、年6回を目安に定期的に行われ、事業所の取り組み状況や利用状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、旭川市職員が毎回参加しており、行政としての意見も参考にしている。また、福祉部への相談などもその都度行っている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換に努め、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をするような状況の方はいないが、ミーティングでの勉強会を通じ、身体拘束をしないケアに心がけている。施錠についても夜間帯以外は行っていない。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止や高齢者虐待防止の研修会を開催して正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議での勉強会を通じ、スタッフひとりひとりが虐待について周知しており、虐待防止につとめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全てが理解しなければならないことであり、研修会への参加や、ミーティングでの学ぶ場を設けている。現状では、活用までは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には説明を行い、理解して頂いている。後日わからないことがあった場合など、その都度説明対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの意見、不満や悩み、不安など日常的に行われているミーティングで吸い上げ、また、家族の要望等もその都度対応出来るよう職員と協議し、運営に反映させている。運営推進会議でも意見の確認をしている。	玄関入り口の見やすい場所に第三者機関等の苦情申し出先を明示している。また、苦情等を言い表せるように苦情受付箱を設置して、そこでの意見を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長の定期的な個別面談の実施し、意見及び提案を聞く機会を設け、運営会議(管理者会議)等で反映できるよう話しあっている。	ミーティングや全体会議、個別面談の実施で職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	親睦会を発足し、年2回の交流会を行っている。また、職員の意見を尊重し、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後は、職員が一人付き、研修(OJT)を行い、力量に合わせOJTの期間を決めている。勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	ケア研究会の行事に参加し、交流を図っているが、他施設職員同士の交流は少ない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時には、本人の見学を呼びかけている。家族や関係者に情報を伺い、本人のようばうに近づけるように事前準備し、安心確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人家族の不安や要望等を伺い、ホームとして出来ること出来ないことを伝えつつ、出来る限り要望に近づけられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、本人・家族の現状の問題などを聴き取りしたうえで、支援内容を確認し、入居後についても、本人の生活状況を観察して、再度支援内容を話しあいながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、洗濯物の干す・たたむ、各自の居室のシーツ交換や掃除など、可能な範囲でスタッフと一緒にしている。新聞たみは全員で行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、本人の様子、必要なものなど伝えている。また、一月ごとの一行日記でも日常生活の様子や行事などを伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力支援して頂きながら、本人の希望に添えるように努めている。	お祭り等の地域行事参加や日常の散歩や買い物等で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係(好み)など考慮しながら、ソファの座る場所や食席等考え、気配りや仲裁などしながら、入居者同士穏やかな関係が保てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、今後の方向性を確認し他のサービスに繋げる取り組みを行っている。その後も家族の相談にも努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思に応じて対応している。又思いが通じる様声かけしている。	アセスメントを通じて一人ひとりの暮らし方の希望、意向の把握に努め、職員間で共有できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や他サービスや医療機関から得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の入居者さんの表情など介護記録などで、スタッフ間で情報の共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の考え、カンファレンス、モニタリングを通じ、職員の意見を介護計画に反映させている。	本人、家族の希望や意向、医師からの指導や助言、カンファレンス、モニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映して、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルにて本人の言葉など記載し、計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院など家族の負担を考慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内を散歩したり、ホームでの行事を開催したりし、利用者自ら挨拶を交わしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医の訪問診療を月1~2回、不規則の歯科往診、24時間の医療連携体制を構築、健康管理・相談など日常的に行っている。	往診や訪問看護師との連携、日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師雇用により最低週1回勤務し、健康管理・相談等行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は頻回に面会し、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談し、その都度家族へも報告している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	日常的に病状などの把握により、状況によって早めに、家族やかかりつけ医等と話し合いを行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整備している。又、ミーティング等でも対応方法の再確認や救命救急講習なども行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを設置し、年2回の避難訓練も実施している。緊急連絡網の整備、運営推進委員会や町内会にも協力を呼びかけている。ミーティング等で再確認している。	年2回の火災避難訓練や救急救命訓練を実施し、緊急時に備えていると共に地域の協力が得られるように努めている。また、スプリンクラーや報知器・通報装置等の設備を完備し、定期点検も実施している。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり1人の尊厳を大切に、言葉使いや態度に十分気をつけ、穏やかに過ごして頂ける様配慮している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないよう日常業務やミーティングで周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや体操、散歩、入浴など全て本人の希望を聴き、その時の体調も考慮し支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ホームの行事やレクリエーションは、その日の入居者さんの体調を考え支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、パーマやカットなど本人の希望を取り入れ支援している。サイズが合わなくなった衣類や傷んでしまった下着等は、その都度家族と相談し処分をさせていただいたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	たこ焼きやホットケーキなどできる人は下ごしらえ、みんなで焼किながら食べている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、食材の下ごしらえや配膳、下膳や食器拭き等職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり医師と相談しながら配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけし行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁による、自信喪失に繋がらないように時間で声かけ、誘導をしている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と連携して、個々の体質なども把握し便秘解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人の意思を尊重し、無理強いすることなく週2回に入浴日を決めている。拒否がみられる場合は、翌日又は次回にはいっていただく。	一人ひとりの希望やタイミングに応じて週2回を目安に柔軟に入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安心して眠れるよう、家族・医師と相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、口頭で説明と受診記録などにも記載して把握できるようになっている。個人ファイルには、最新の薬情報が綴られており、常に確認し共有できる体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や好きな事を見だし考えながら、気分転換を図れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、散歩、買い物、外食など、季節により外出の機会を設けている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、近隣への散歩や買い物、外気浴など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、花見やお祭り見物、外食など普段は行けないような場所でも、戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	、ホームで預かり外出時や買い物で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、電話や手紙のやりとりの援助をしている。ただし、相手方の状況も考慮しながら支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者同士の状況、身体の状況など考慮し、居心地よく過ごせるよう、その都度居場所を検討している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真等が掲示されるなど生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の状況により、それぞれの居場所を検討し、対応している。また、テラスやパブリックスペースにもイスを設置し、自由に出入りができ、くつろげるよう対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具、仏壇など設置したり、家族の写真を飾ったり、安心して生活できるよう工夫している。	居室には、使い慣れた家具や仏壇等が持ち込まれるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室に手すりをつけたり、入居者の出来る事や解ることを活かし、それぞれにオシボリを干したり洗濯物を畳んだり工夫している。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ひだまりの家作成日: 平成 27年 10月 2日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	19	入居者様一人一人の様子を『一行日誌』に毎日書いているが、日誌の書き方が不十分でご家族にご本人の様子、表情等が伝わる文章になっていない。	ご家族が一行日誌を読んだ時、ホームでのご本人の生活、様子、表情が思い浮かぶような文章が書ける。	8月…一行日誌の役割、書き方を勉強する。 9月…他職員の書いた一行日誌を家族になった気分で読んでみる。 10月…意見交換。良いと思った文章をまねて書いてみる。	3~4ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。